令和２年 10 月２６日

2020 年度　第２回　学校関係者評価委員会　議事録

議事録：久原

【目的・目標】
第１回目の会議後の学校運営についてのご意見をいただき、学校改善・改革に繋ぐ。

【日時・場所】
令和２年 10 月２６日（月）10：00～12：00
福岡ベルエポック美容専門学校

【学校関係者評価委員（外部)】
卒業生代表・・・力武　毬絵（美容師科卒業生）
保護者代表・・・江口　亜希子（ブライダルコーディネーター科保護者）
高校関係者・・・矢ケ崎　祐和（県立香椎高等学校　校長）
地域関係者・・・春山　大輔（大浜自治協議会）
業界関係者・・・早田　健（(株）ロット　代表取締役）
　　矢田　綾香（一般社団法人　日本化粧品検定協会　顧問）

【内容】

■　進行：佐藤局長（PPT 使用）
前回から約半年。以前の話の報告も踏まえて話をしたいと思います。
本日の内容確認。

■　田中学校長あいさつ　　～オンライン授業の成果と課題～
本日のご出席の御礼。
前回（6 月 29 日）では 5 月のオンライン授業から、6 月からの登校をはじめ、今後の事を話したい。
コロナ禍で教育機関でも大きな流れが変わり、システムが変わっている。次につなぐという手段としても、大切な会議となるのではないかと考えている。デジタル化など時代の流れもあり学校教育も変革を迫られている。ある意味良いチャンスなのかもしれない。

その中で、大学でのオンライン授業の状況（別紙参照）をまとめてみました。
（日経新聞抜粋）

オンラインと対面授業を併用している学校は 6 割強ある。
① ほとんど対面・・・20%
② 7 割対面・・・・・11%
③ おおむね対面・・・25%
④ 3 割対面・・・・・25%
⑤ ほとんど遠隔・・・19%

1 年生では友人関係構築などが課題となるが、はじめは対面、徐々にオンラインなど工夫している。また、オンラインに対する様々な意見が出ている。
（資料：日経新聞抜粋）

・オンラインは大人数で受講しても最後は 1 対 1 が良い
・投稿が苦手な学生に等には良い授業になる
・授業が録画でき、学びなおし、復習がしやすい
・どこにいても授業が受けられるので、出席率は上がり、効率が良くなる
・セミナー的な討論は難しい、相手の顔や雰囲気が読めないと講義が熟さない
・新入生は仲間つくりの視点から、対面授業を多くし、人間関係づくりを　　など。

〇滋慶学園グループの東京メディカルスポーツ専門学校の事例紹介
「5 分でわかる実践映像：総集編」専門学校のオンラインセミナー（you tube 動画）

〇オンライン授業における評価について（you tube 動画）
（参考：九州大学基幹教育院人文社会科学部門准教授　山田　政寛）
「授業デザインから考える成績評価：オンライン型授業で変わること・変わらないこと」

基本的に学ぶ側の学ぶ姿勢が大切。また受ける側（学生）の学びたいという気持ちが大事。
なので、中身の内容などを考えていくことなど考える事が多くあった。
以上、現状と課題含め話をしました。

■　出席評価委員紹介（外部）

■　学校参加メンバー

学校長　　田中　浩一
事務局長　　佐藤　誠
美容師科学科長　　三村　宗緒
トータルビューティ科・ヘアメイク科　学科長　　水谷　将也
ブライダルコーディネーター科　学科長　　柴田　薫
新・美容師科学科長　　加藤　真也
高校センター長　　古川　喜春
広報センター長　　成本　佳樹
キャリアセンター　　久原　靖司

■　学校評価委員の目的の再確認と認定について

各学校が自らの教育活動等の成果や取り組みを不断に検証することにより

1.　各学校が、自らの教育活動そのほかの学校運営について、組織的・継続的な改善を図る。
２．学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民等から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進めること
３．設置者が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、教育水準の保証・向上を図ること。

〇専攻分野に関する企業・団体等との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っている。

〇企業と連携して、実習、実技、実験または演習の授業を行っている。

〇企業と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っている。

〇評価を行い、その結果を公表している。

〇評価にあたっては、関係者として企業の役員または、職員を参画させている。

〇企業に対し教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供している。

■　2020 年学事報告

2020 年の新型コロナウィルスを受けての本校の対応について

1 月２８日　新型コロナウイルス感染者　確認

３月２日　　全国小・中・高・特支学校　臨時休校発表

３月１０日　本校卒業式（９階ホール）

４月７日　　緊急事態宣言発令（福岡含む）

４月１７日　緊急事態宣言全国へ（５月６日まで）

５月７日　　本校入学式（オンライン）

５月１８日　オンライン授業開始（5 月末まで）

６月１日　　分散登校

６月１８日　通常登校（全面対面授業）

７月２８日　本校で在校生新型コロナ感染

7 月には本校でも感染者が発覚。すぐに保健所に報告し、判断を仰いだ。

保健所からの確認事項や指導など、やり取りについては以下。

１．発症してから 2 日前

　菌が強く、感染リスクが高いのが 2 日前よって、濃厚接触者の確認をする際は

　2 日前の行動がポイントになる

２．感染リスクが高まる行動

　マスクを外して、1 メートル以内で 15 分以上話している時

３．校内消毒と使用制限について

　該当学生が使用した机、イス、触った機器などをアルコール　で吹き上げれば使用可能

４．休校措置に関して

　感染者、濃厚接触者は１４日間の自宅待機になるが、学校運営をストップする必要はない。

５．濃厚接触者に関して

　保健所から直接連絡を取ります。学校が認定することはない。

消毒に関しては、感染者が触れたところなどを消毒するように指導であったが、
本校は全館消毒を現在も行い、現在は業者に入ってもらい消毒をしている。また、
オゾン装置なども導入し、感染対策には徹底して対策を実施している。

■　後半のスケジュール

後期授業では ICT 教育の導入も視野に、オンラインと対面を織り交ぜている。

７月２２日～８月３０日　夏休み
９月２５日　１セメスター（前期）終了
１０月５日　　２セメスター（後期）開始
オンライン（遠隔）授業 ＋ 登校型授業のハイブリッド教育を開始
２月１９日　２０２０年度　授業終了
３月１０日　卒業式（ヒルトンシーホーク）予定

■　2020 今後の課題、重点課題について

・中途退学率 0 の達成
・卒業後 1 年以内専門職離職率 0
・専門就職 100%
入学生の変化やニーズ(中退率 0)・業界のニーズ（1 年以内離職率 0）を実現するには教育プログラム/就職支援プログラムの整備と関わる人材の養成が重要と考える。
・入学者確保と予算執行の健全経営
同分野多くの専門学校がある中、受験生に的確に学校の特長をより的確に示す更なる努力と、経済的理由から進学を断念する受験希望者の対応を充実させる必要がある。
更に、予算書＝決算書となるようスタッフが意識して運営を行うことが大切である。

〇福岡ベルエポック美容専門学校の価値創造
１．企業コラボによる産学共同教育の推進
　→コロナ禍で前半はストップしていたがようやく動き出した。
２．高校２年生への広報活動の強化とシステム確立
　指定校との関係強化（高校センター設置）
　→連絡を取り合い訪問や電話フォローで関係を構築し始めた
３．就職計画の構築
　オンライン就職活動に対応する。
　内定を最優先する学生指導（業種によりコロナウィルスの影響で求人減）
　→最優先課題として取り組みしている

■　数字での報告（2020 年 10 月 26 日現在）

就職	求人数	就職対象者数	就職希望者	内定者数	内定率
２０２０	591	179	165	70	42.40%
２０１９	643	168	163	83	50.90%

教育	在籍者	退学者数	休学者数	長期欠席者
２０２０	432	11	4	-
２０１９	386	6	3	7

学生募集願書提出		入学者数
２０２０	229	240 見込み
２０１９	201	238

〇学園の報告
東京で早期に感染者が発覚。福岡ではグループ校の中では本校が初めで、グループ校からも感染者が出てきた時には対応方法を共有していた。
感染者が発生したときにホームページでの公表を迷ったが、公表することが安心感を与えると思い公表を決断した。
しっかりと感染対策（3 密対策を含めて）を行い、それからの拡大はない。

■　評価委員からのご意見など
矢ケ崎さま）
高校では対面授業を実施。香椎高校ではまだ感染の報告はない。県の対策マニュアルがあるので、もしもの時はそれを軸に対応する。周りに気を付け、気を遣うように生徒にも職員にも伝えている。
オンラインは、知識の伝達だけではないので、対応できる部分とできない部分があると思う。西洋の考え方とは少し違うような気がする。
オンラインでできる場合は、家庭ごとの環境の違いが大きいので、デバイス環境が原因で、学ぶモチベーション低下なども。授業受け手の気持ちの維持が課題になりそうだ。
学校としてオンライン授業ができる環境を整える必要がある。福岡県では Apple 社のタブレット配布予定であるのでそれに準じた環境整備が必要を思われる。
佐藤局長）
東京では登校を始めて、不適応者が出てきている。オンラインでは生き生きしている人でも実際に通うと対人関係で問題が発覚するパターンも見られる。
学校としても PC 環境整備を進めていくことを考えており PC 購入を進めていきます。

田中学校長）
モチベーションは高校生とも違う部分があるので、美容学生は好きの感性を揺さぶるような仕掛けが大事なのでは？中高生に関しては難しいものがあると思う。
力武さま）
7 月～天神エリアの美容室は、集客も例年通りに戻って来ている。マスクの着用も薄れているお客様も出てきている。大学生のお客様の話では、オンライン授業は課題が増えるのが嫌だという声も。しかし、遠方の学生さんはありがたいと思っている人もいる。
学ぶ環境でいうと、やはり周りに同じ学ぶ人がいるという事も大事な環境だと思うので、やはり対面授業は大事だと感じる。
発信力を高めるためにも PC など環境整備をお店でも行っているので学校は対応していると思いますが今は、自ら発信する力が必要である。
春山さま）
自治協議会としての活動は現在ない。できることを探しても、イベントができないことも多い。
スポーツ行事に関しても室内では実施できない状況。イベント関連はいまだ難しい。
前回の話で、地域貢献を通して学生との交流の話が出ていたが、会長との話しで、前向きに考えたいと思っている。コロナ対策だけしっかりお願いしたい。
江口さま）
子供の状況はあまり変わっていないと思われる。
質問だが、土日の実習に関して現地集合などが多くある様子で、交通費などの負担が大きくなってきている。保護者目線でいうと、学校集合などして金銭的な追加負担が無いよう出来ないか？と、引率の先生がいないという報告もあるので、何かの際に対応できるかが不安。
佐藤局長）
現場とのやり取りは出来ているので、現場では担当の方が対応してくれるよう事前に打ち合わせしている。そして何かの際には学校へ連絡をもらうなどの連携は出来ているので、安心してほしい。
田中学校長）
現場実習に関しては、中学校・高校では職場体験というが、大きな流れの中で、学校だけでは学べないことも多い。リスクマネジメントの話に関しては、どこでもあるようで、外部の実習に教員がすべてついて行くことは、まず無いのが現状。
経費に関しては、他大学など見ても実費を本人が支払うことが主流。インターンシップなども配属先へは自費で通っている。保護者の気持ちもよくわかります。

■ 質疑応答

成本）
現場で経験して成長することが学校のテーマ。業界もコロナ対策を講じての開催も増えて

きており、学生が外に出ることも増えてきた。福岡ではあまり感染者は多くないが、県外からのゲストが来るなどで、不安がある人もいるのでは？という気持ちはあるのだが、保護者目線でどうお感じになっているのか？

江口さま）
保護者としてはやはり心配。
春山さま）
心配や万が一もあるかもしれないという思いがあると思うが、そうやって学ぶことが必要なのでは。経験に勝るものはないとも思っているので。
江口さま）
連絡は取りあうが、現場が遠ければ遠いほどどうしようもないので、見守るしかない。
矢ケ崎さま）
県立高校は、部活や外部授業は県の規定に沿って実施するが、各学校判断の場合は出来るだけの感染対策は神経質におこなって理解を求めたうえで実施する。しかしリスクはあることは消せない。
柴田）
実習に関しては学生にアンケートを取る。口頭では行きたい、やりたいという学生は多いが、実施に向けたアンケートや保護者への確認などを実施すると、希望者は激減した。
江口さま）
子供が正月帰ってくるのを楽しみにしているが、近所では福岡に進学・就職した子供に正月も戻ってくるなと伝えている家庭もある。
矢ケ崎さま）
高校での求人がなくなっているので、就職希望者はほぼいなくなった。無理に就職させるより進学を勧める傾向も。大学受験の推薦希望者やできるだけ近くの進学先にしたいという生徒が増えている。
田中学校長）
学校の入り口（入学)、出口（就職）はコロナの影響はあるようだ。

■　お礼のご挨拶（田中学校長より）
大変貴重なご意見有難うございました。
新聞の記事にあったが、これから地域産業をいかに進めるか、持続性、可能性がカギ。
また、一人ひとりの力をいかに上げるか（教育)、デジタル化をいかに取り入れていくか。
などこれからの社会は変わっていくだろうとの見方がある。

オンライン授業を含めた ICT 教育を推進するために学校としても PC などの購入を進めていきます。

以上